

# 石油市場の 現状と背景、注目点

—OPEC関連会合に関する—考察—

2019年7月18日

石油天然ガス開発推進本部

野神 隆之

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

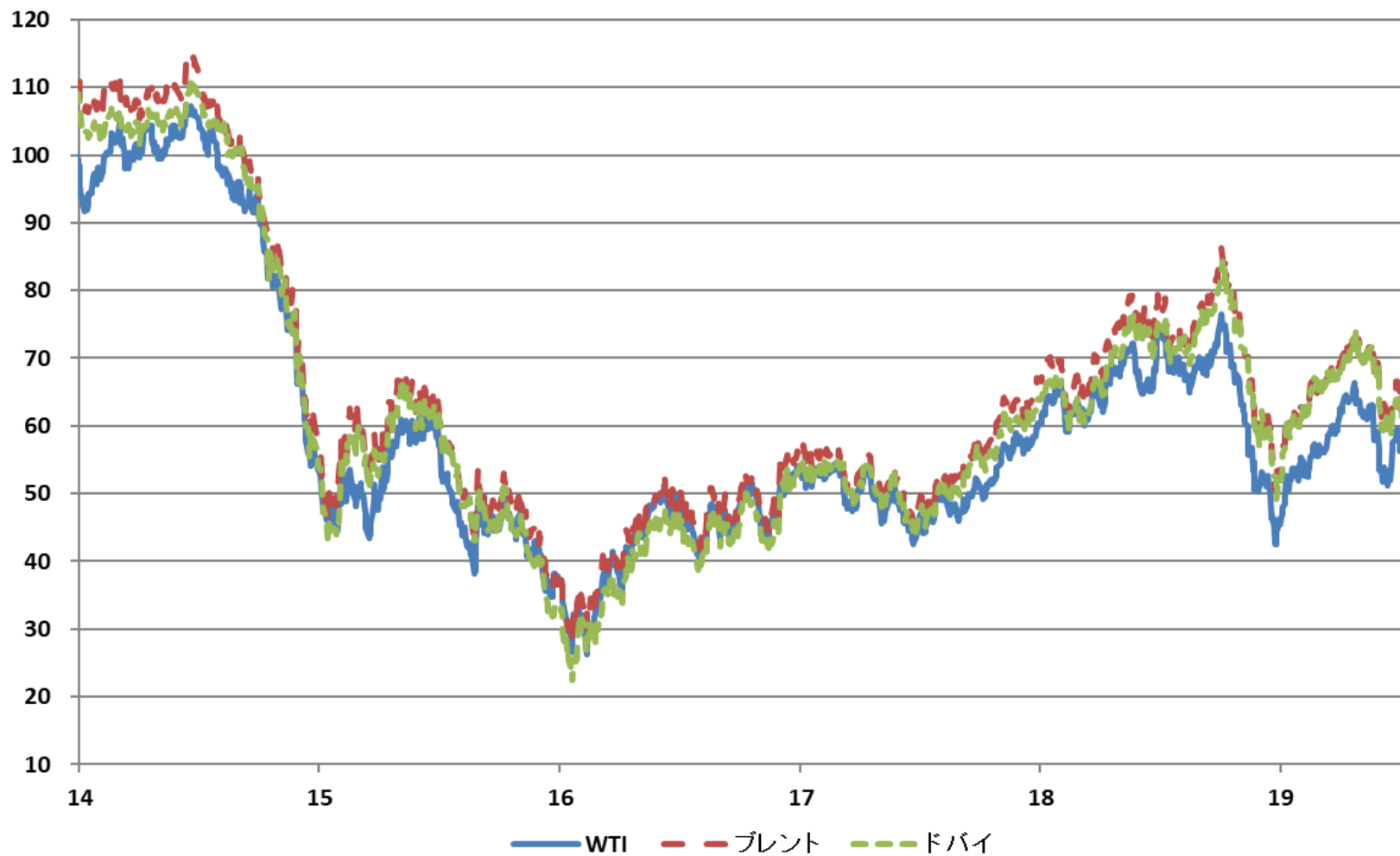
# 免責事項

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。

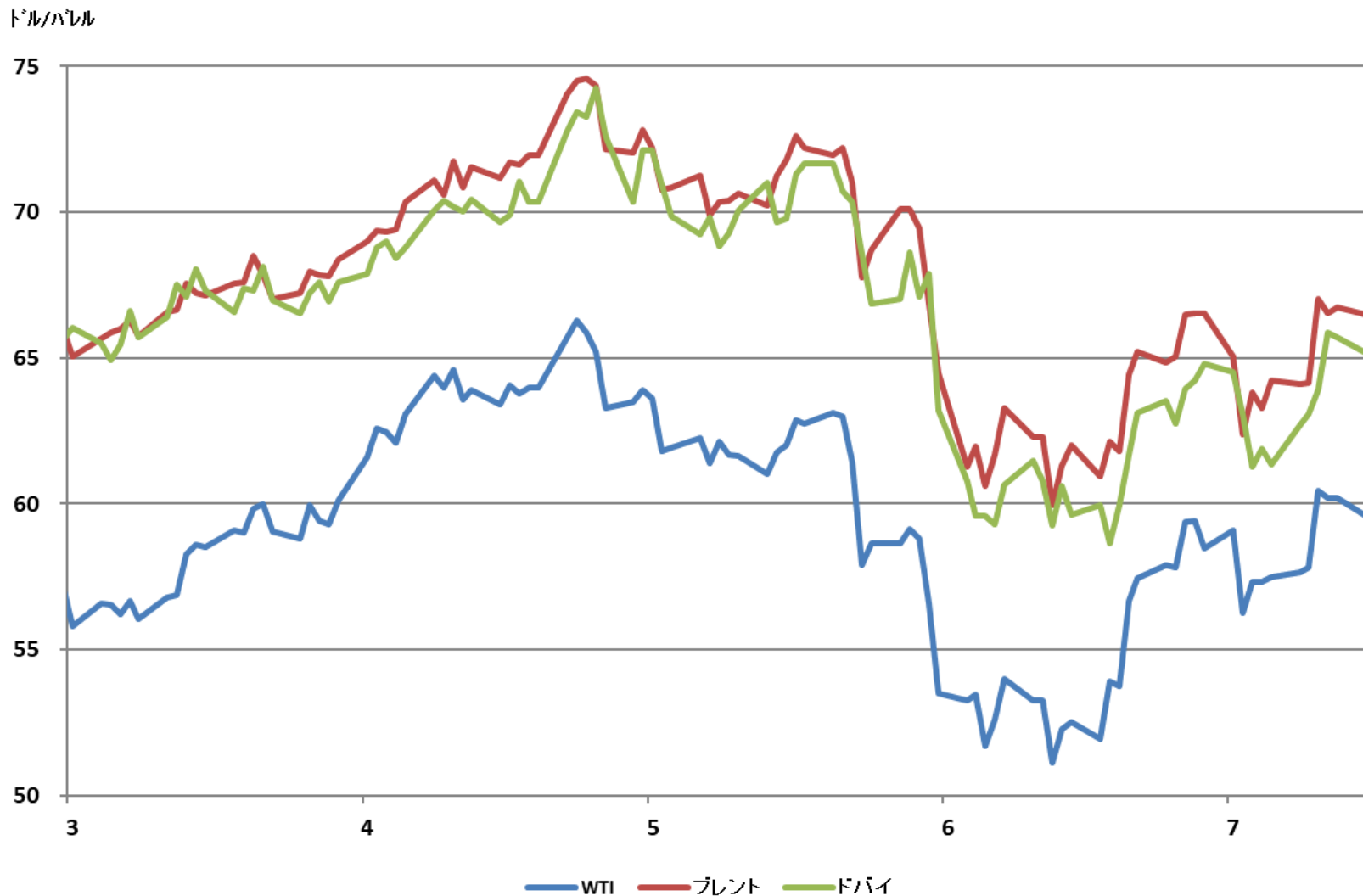
また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

# 原油価格(2016~19年)

ドル/バレル



# 原油価格(2019年3~7月)



# 2019年3月(上旬)～4月(下旬) の石油市場

1. 原油価格: 上昇傾向 — 2019年3月7日のWTIで1バレル当たり56.66ドルが4月23日には同66.30ドル。2018年10月29日(この時は同67.04ドル)以来の高値に。
2. 原油価格上昇の主な要因: 市場での石油需給引き締め感の醸成
  - ① 米国石油坑井掘削装置稼働数の減少
  - ② サウジアラビア原油供給減少見通し、及び減産方針堅持の姿勢表明
  - ③ ベネズエラ国内混乱(3月7日大規模停電発生、石油インフラへ影響)
  - ④ 米国金融引き締め姿勢後退(3月19～20日FOMC)
  - ⑤ 米国と中国の貿易紛争に関する協議に対する市場の期待
  - ⑥ リビアでの政情不安激化(東西両政府軍がトリポリ郊外で衝突)
  - ⑦ 米国がイラン産原油輸入国・地域に対し5月1日を以て輸入禁止適用除外措置を終了する旨発表(4月22日ポンペオ国務長官)

# 2019年4月(下旬)～6月(月上旬) の石油市場

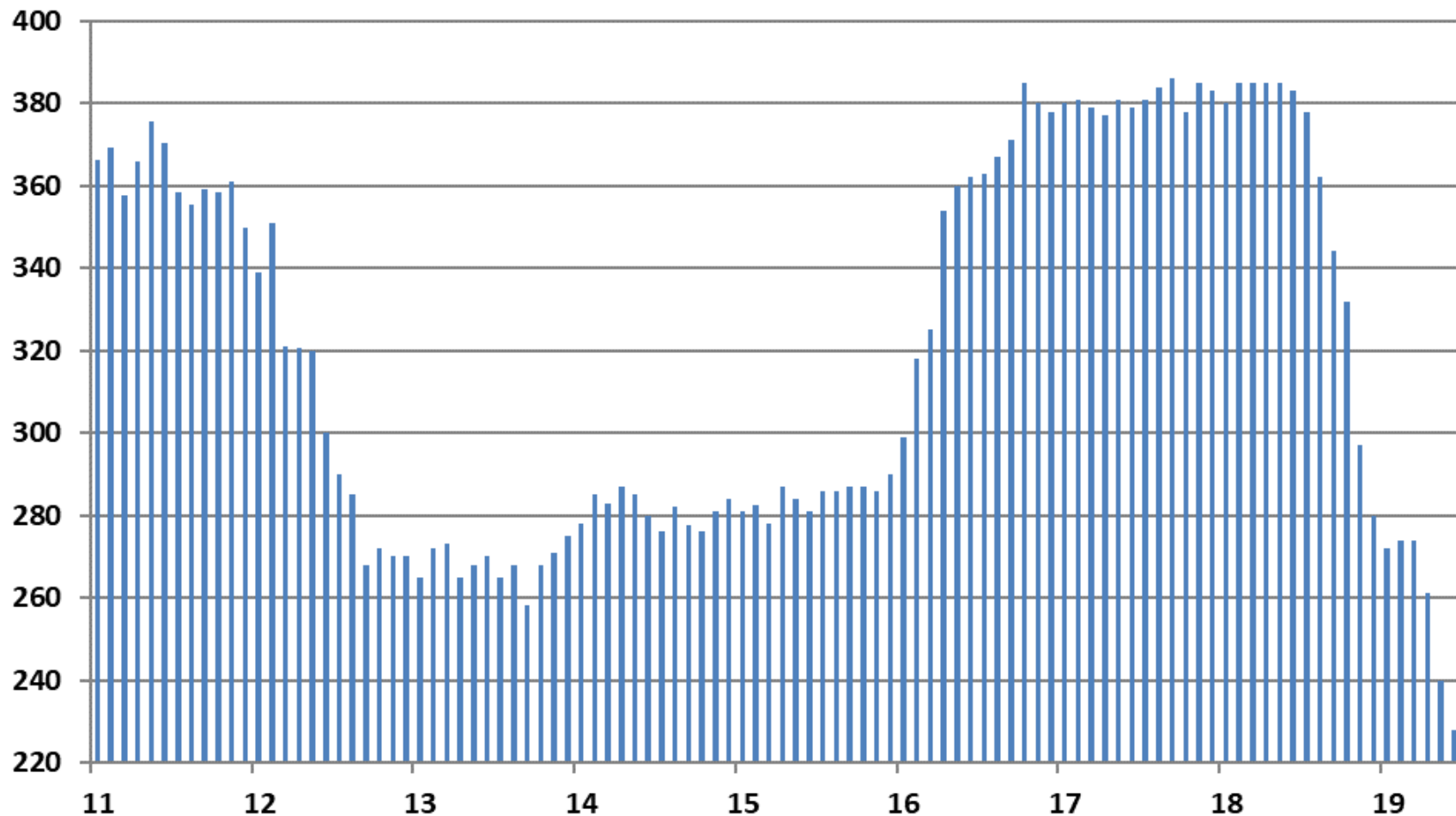
1. 原油価格:下落傾向－2019年4月23日には1バレル当たり66.30ドルであったWTIは6月12日には同51.14バレル、1月14日(この時は50.51ドル)以来の低水準に。
2. 原油相場に影響した主な要因(I):上方圧力
  - ①米国のイラン産原油輸出の事実上の全面禁止措置実施にも関わらず、OPECがイラン産原油代替に対し慎重な姿勢を示す
  - ②ベネズエラでのマドゥロ大統領と反大統領派との対立激化(グアイド国会議長による蜂起の呼びかけ)
  - ③米国の中東での軍事力増強(空母群及び爆撃部隊等派遣):地域におけるイランの脅威増大が理由
  - ④UAEフジャイラ沖でのタンカー攻撃及びサウジアラビア東西パイプライン攻撃、駐イラク米国外交官の一部退去命令
3. 原油相場に影響した主な要因(II):下方圧力
  - ①米国トランプ大統領のOPEC産油国等への増産要請(OPEC側否定)
  - ②米国原油在庫増加
  - ③米国の対中国関税引き上げ方針、中国の報復措置、貿易問題長期化への懸念
  - ④米国の華為技術他に対する米国製品制限検討の情報

# 2019年6月(上旬)～7月(中旬) の石油市場

1. 原油価格：上昇傾向－6月12日には1バレル当たり51.14ドルであったWTIは7月10日には同60.43バレル、5月22日(この時は61.42ドル)以来の高水準に。
2. 原油相場に影響した主な要因：
  - ①オマーン湾でタンカー2隻が攻撃を受けた他、イランが米国の無人偵察機を撃墜したことに加え、イエメンのフーシ派武装勢力によるサウジアラビア空港等への攻撃により、中東地域からの石油供給への影響に対する懸念が市場で増大
  - ②金融緩和方策実施可能性の示唆(FRB及びECB)
  - ③米国と中国の貿易紛争に関する協議進展への期待増大
  - ④米国原油在庫等の減少
  - ⑤米国北東部製油所(フィラデルフィア)で火災が発生し操業が停止したことで、米国ガソリン先物価格が上昇
  - ⑥米国石油坑井掘削装置稼働数の減少
  - ⑦米国メキシコ湾でのハリケーン「バリー(Barry)」来襲：7月14日現在沖合原油生産の約73%(日量138万バレル程度)が生産停止

# イラン原油生産(2011~19年)

日量万バレル

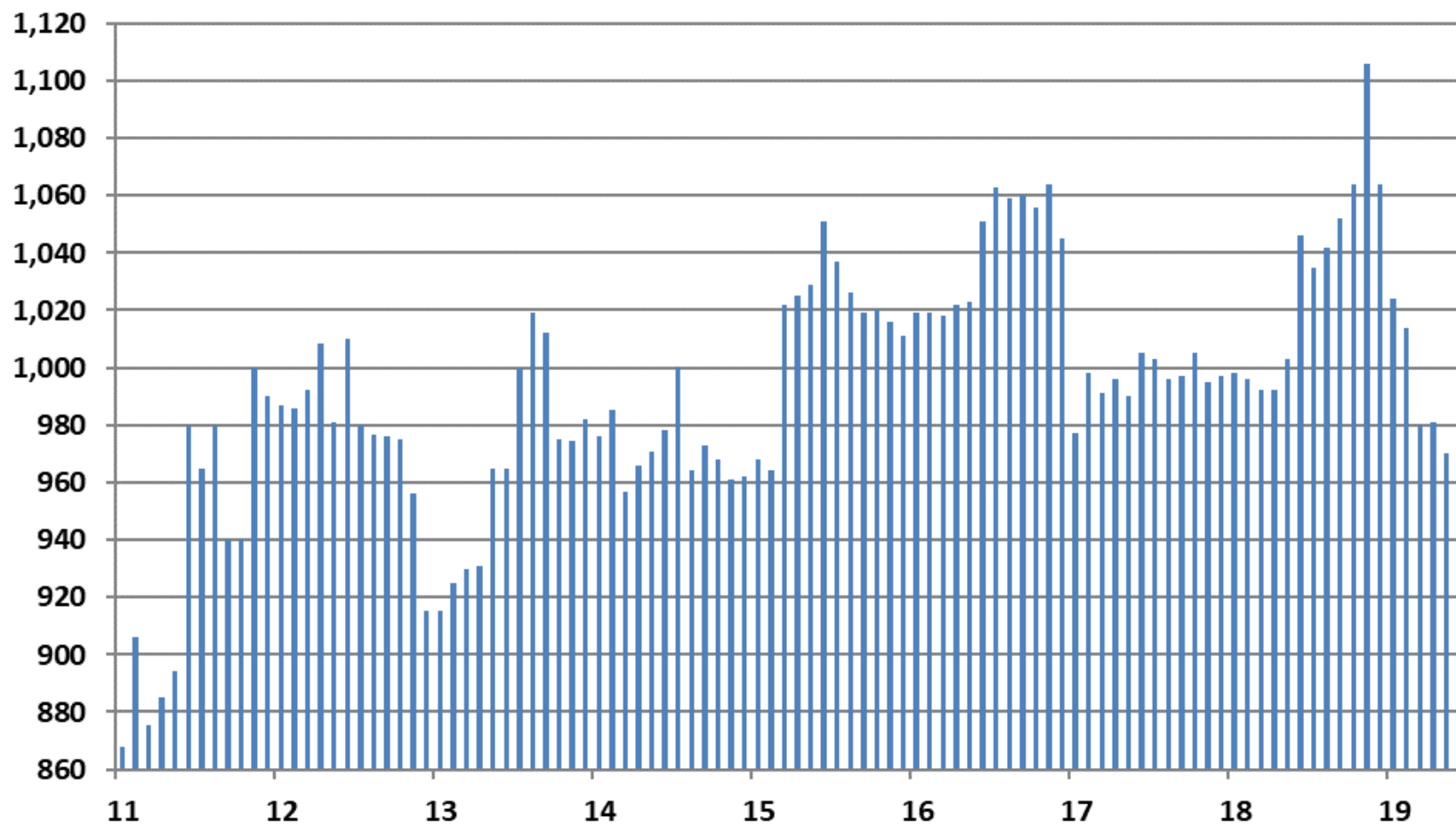


出所: IEAデータをもとに作成



# サウジアラビア原油生産(2011~19年)

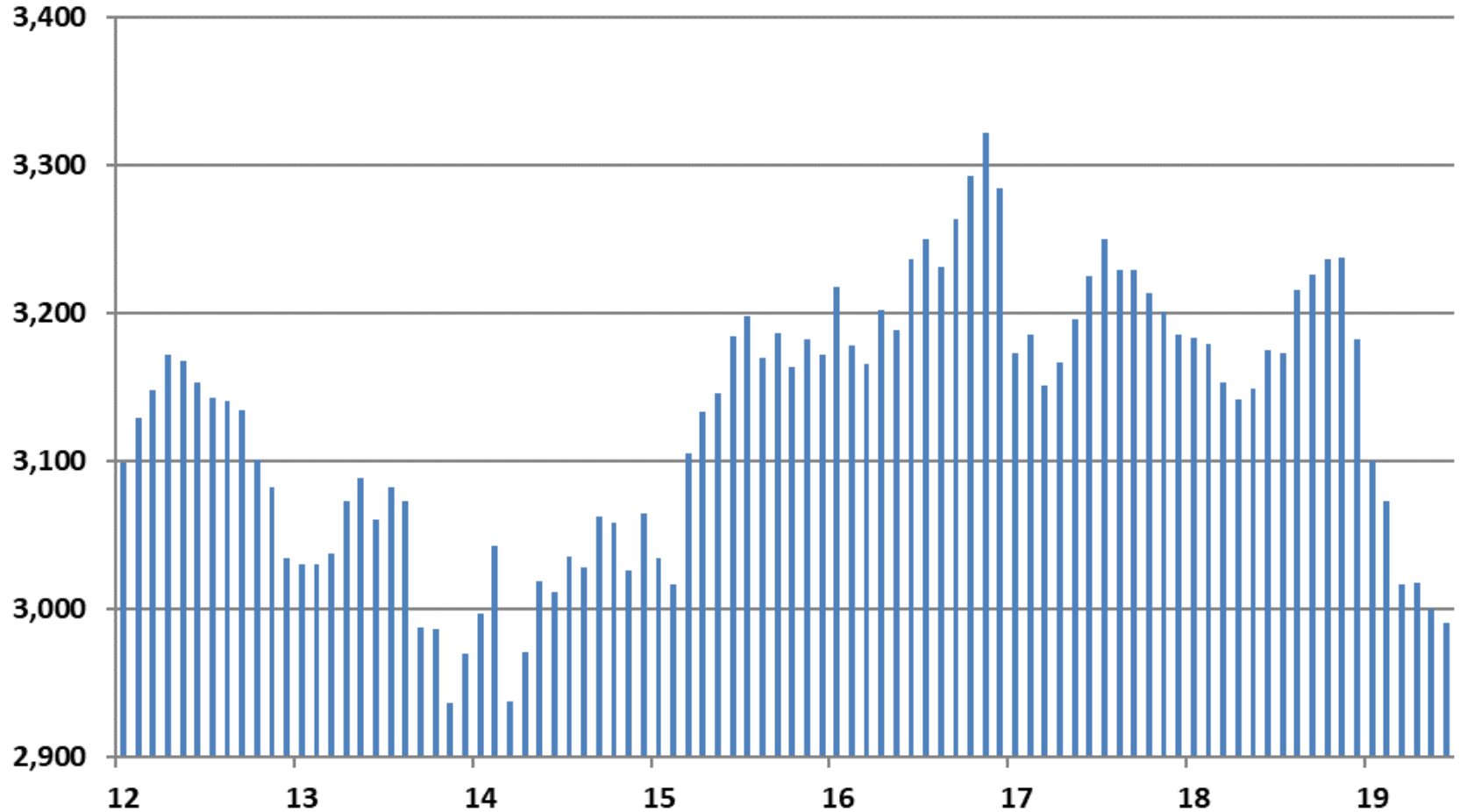
日量万バレル



出所:IEAデータをもとに作成

# OPEC産油国原油生産(2012～19年)

日量万バレル

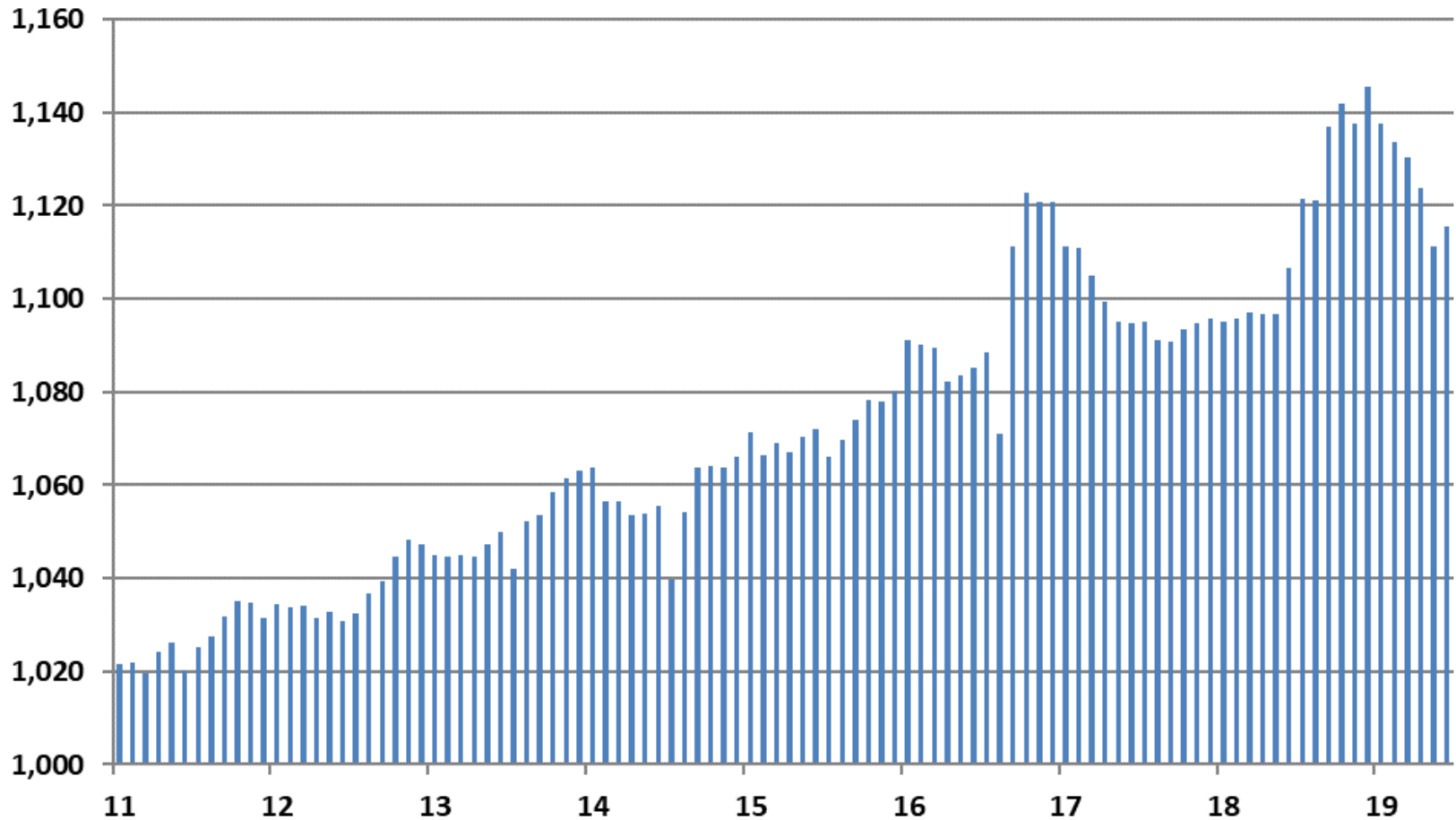


※現在のOPEC加盟国を基準

出所:IEAデータ等より推定

# ロシア原油生産(2011~19年)

日量万バレル



出所:IEAデータをもとに作成

# OPEC総会、OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合(オーストリア・ウィーン)



1. 7月1日(OPEC総会)及び7月2日(OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合)開催(当初の6月25日(OPEC総会)及び6月26日(OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合)から変更)
2. 2019年1月1日より実施している減産措置(OPEC産油国日量80万バレル、一部非OPEC産油国同40万バレル)を2020年3月末まで延長を決定
3. 引き続きJMMC(OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚監視委員会)が減産状況に関する監視を行い、OPEC議長に報告
4. OPECと一部非OPEC産油国による協力憲章(無期限、OPEC及び一部非OPEC産油国が各種会合の実施体制を確立するとともにOPEC事務局がその調整を担当)を承認、各産油国に対し国内での批准手続きを実施するよう要請
5. OPEC総会でバルキンド事務局長(2019年7月31日に3年の任期満了到来)が2019年8月1日から3年の任期で事務局長続投
6. 次回の会合: OPEC総会が2019年12月5日、OPEC及び一部非OPEC産油国が同年12月6日に開催予定

# OPEC総会、OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合の背景と示唆するところ等(1)



1. 2019年5月末現在のOECD諸国石油在庫(OPEC総会時点): 平年(=過去5年平均)を6,000万バレル超過=その分だけ石油在庫余剰
2. 2019年後半の世界石油需給バランス: OPEC産油国が現状の原油生産を2019年末まで維持した場合、平均で日量45万バレル需要が供給を超過(6月19日開催のOPEC経済委員会では日量50万バレルの超過の見解)することから、2019年末までには石油在庫余剰が概ね消滅する可能性
3. このため、2019年1月1日より実施している減産措置(OPEC産油国日量80万バレル、一部非OPEC産油国同40万バレル)を年末まで延長することで、関係国間で意思統一が醸成
4. しかしながら、早期に当該減産の情報が発信され(6月10日サウジアラビアのファリハ エネルギー産業鉱物資源相「ロシアだけが年末までの減産につき合意に至らず」)、2019年末までの減産措置延長が市場心理に織り込まれ済に

# OPEC総会、OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合の背景と示唆するところ等(2)



5. 従って、実際にOPEC総会等で2019年末まで減産措置をそのまま延長しても、市場関係者にとって驚きにならず、かえって利益確定が発生し原油価格を押し下げる可能性
6. このようなことから、今次総会等では市場で既に織り込み済の2019年末までの既存の減産措置延長をさらに3ヶ月伸ばし、2020年3月末までの延長とすることで、市場の石油需給引き締め感と原油価格の下落抑制を狙った可能性
7. もっとも、OPEC総会当時、2020年第一四半期は、供給が需要を日量190万バレル超過するとの予想(総会等開催当時)
8. この結果、2020年3月末まで既存の減産を延長しても当該時期には再び石油在庫余剰が発生する可能性
9. 2019年12月に開催されるOPEC総会等では、減産目標の拡大を含め、減産措置につき再検討する必要性を市場が認識、7月2日には原油価格下落へ(WTIで前日終値比1バレル当たり2.84ドル下落の56.25ドルの終値)

# 世界石油需給シナリオ(2019年) (OPEC総会開催時)

(単位: 日量百万バレル)

	2018	1Q19	2Q19	3Q19	4Q19	2019
総需要①	99.16	98.72	100.05	101.38	101.18	100.34
非OPEC生産	62.70	63.63	63.99	64.97	65.68	64.57
OPEC原油生産	31.88	30.61	30.03	29.95	29.95	30.13
OPEC NGL生産	5.53	5.58	5.58	5.57	5.56	5.57
総供給②	100.10	99.81	99.60	100.49	101.19	100.28
在庫変動その他(②-①)	0.94	1.09	-0.45	-0.89	0.02	-0.06

\*: OPEC産油国については2019年5月の原油生産量がその後も維持されるものと仮定

出所: IEAデータをもとに作成

# 世界石油需給シナリオ(2020年) (OPEC総会開催時)

(単位: 日量百万バレル)

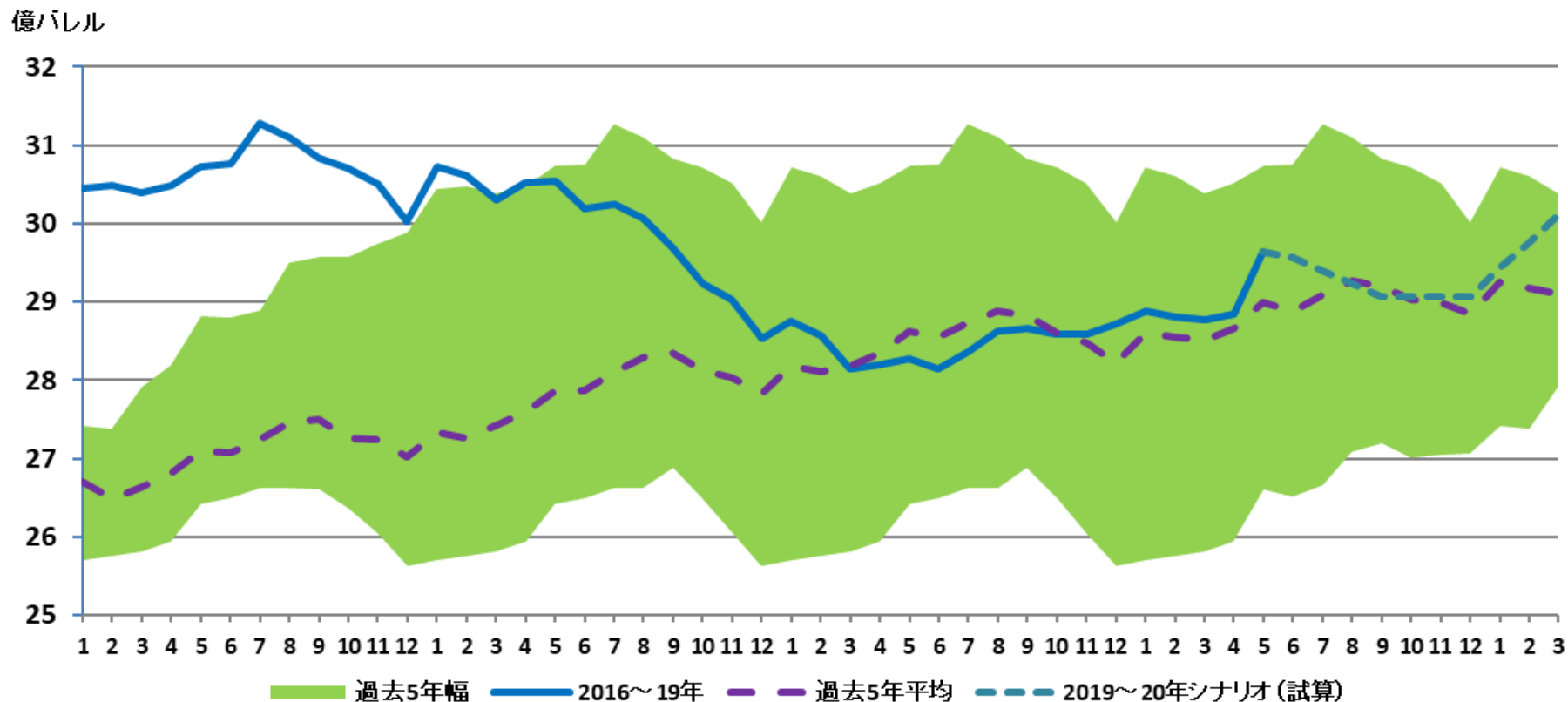
	2019	1Q20	2Q20	3Q20	4Q20	2020
総需要①	100.34	99.78	101.56	102.91	102.68	101.74
非OPEC生産	64.57	66.11	66.55	67.23	67.41	66.83
OPEC原油生産	30.13	29.95	29.95	29.95	29.95	29.95
OPEC NGL生産	5.57	5.62	5.62	5.61	5.61	5.62
総供給②	100.28	101.68	102.11	102.80	102.97	102.39
在庫変動その他(②-①)	-0.06	1.90	0.55	-0.12	0.29	0.65

\*: OPEC産油国については2019年5月の原油生産量がその後も維持されるものと仮定

出所: IEAデータをもとに作成



# OECD諸国石油在庫の推移(2016~20年) (OPEC総会時)



出所:IEAデータ等をもとに試算

# OPEC総会、OPEC及び一部非OPEC産油国閣僚級会合の背景と示唆するところ等(3)



10. 7月12日発表(=OPEC総会後)のIEA「オイル・マーケット・レポート」での5月末のOECD諸国石油在庫状態及び2019年後半以降の石油需給バランスを用いて分析を更新しても、2020年3月末までには石油在庫が余剰状態に(2019年後半についてはOPEC総会時の分析よりも石油需給は引き締まる可能性はある示唆されるものの...)
11. 米国と中国の貿易紛争等により世界経済成長が下振れすることに加え、米国原油生産が上振れすれば、さらに石油在庫余剰感が市場で強まるとともに、原油価格に下方圧力が加わるとみられることから、OPEC産油国等としても減産措置を再検討する必要に迫られる可能性も

# 世界石油需給シナリオ(2019年) (2019年7月17日現在)

(単位: 日量百万バレル)

	2018	1Q19	2Q19	3Q19	4Q19	2019
総需要①	99.11	98.81	99.60	101.43	101.29	100.29
非OPEC生産	62.86	63.86	64.48	65.28	65.77	64.85
OPEC原油生産	31.88	30.63	30.03	29.91	29.91	30.12
OPEC NGL生産	5.53	5.58	5.57	5.55	5.54	5.56
総供給②	100.26	100.07	100.08	100.73	101.22	100.53
在庫変動その他(②-①)	1.15	1.26	0.48	-0.69	-0.07	0.24

\*: OPEC産油国については2019年6月の原油生産量がその後も維持されるものと仮定

出所: IEAデータをもとに作成

# 世界石油需給シナリオ(2020年) (2019年7月17日現在)

(単位: 日量百万バレル)

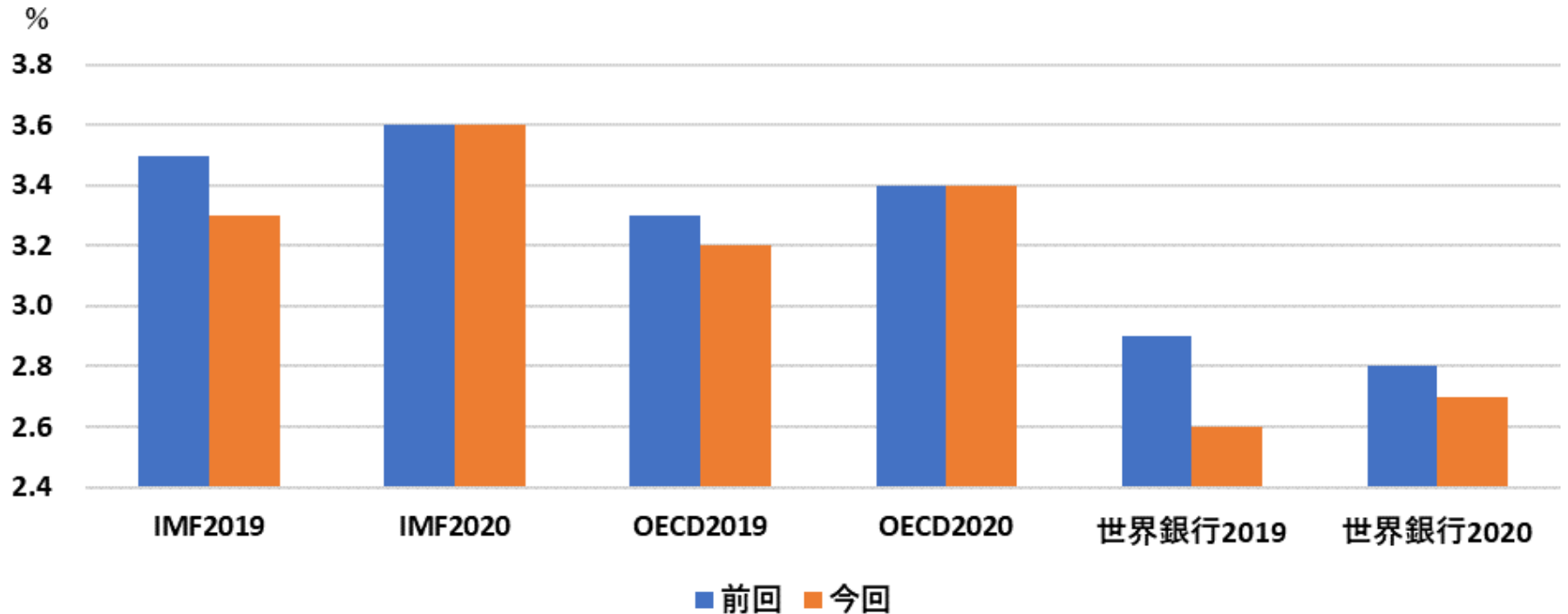
	2019	1Q20	2Q20	3Q20	4Q20	2020
総需要①	100.29	99.77	101.25	102.93	102.72	101.67
非OPEC生産	64.85	66.19	66.77	67.33	67.62	66.98
OPEC原油生産	30.12	29.91	29.91	29.91	29.91	29.91
OPEC NGL生産	5.56	5.59	5.59	5.59	5.59	5.59
総供給②	100.53	101.69	102.28	102.83	103.12	102.48
在庫変動その他(②-①)	0.24	1.92	1.03	-0.09	0.40	0.81

\*: OPEC産油国については2019年6月の原油生産量がその後も維持されるものと仮定

出所: IEAデータをもとに作成



# 2019～20年世界経済見通し

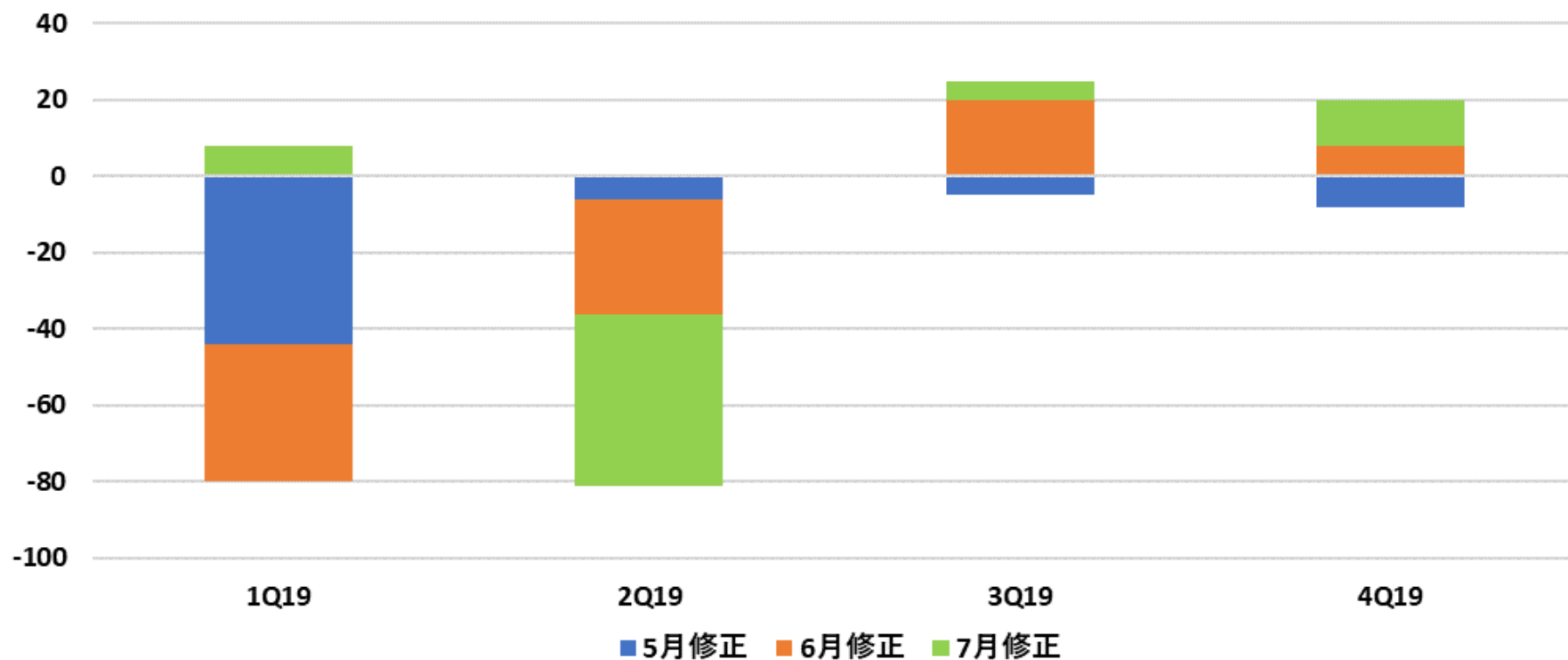


※「前回」はIMFが2019年1月11日、OECDが2019年3月6日、世界銀行が2019年1月8日の、それぞれ発表、  
「今回」はIMFが2019年4月9日、OECDが2019年5月21日、世界銀行が2019年6月4日の、それぞれ発表

出所: IMF、OECD及び世界銀行データをもとに作成

# 世界石油需要の修正

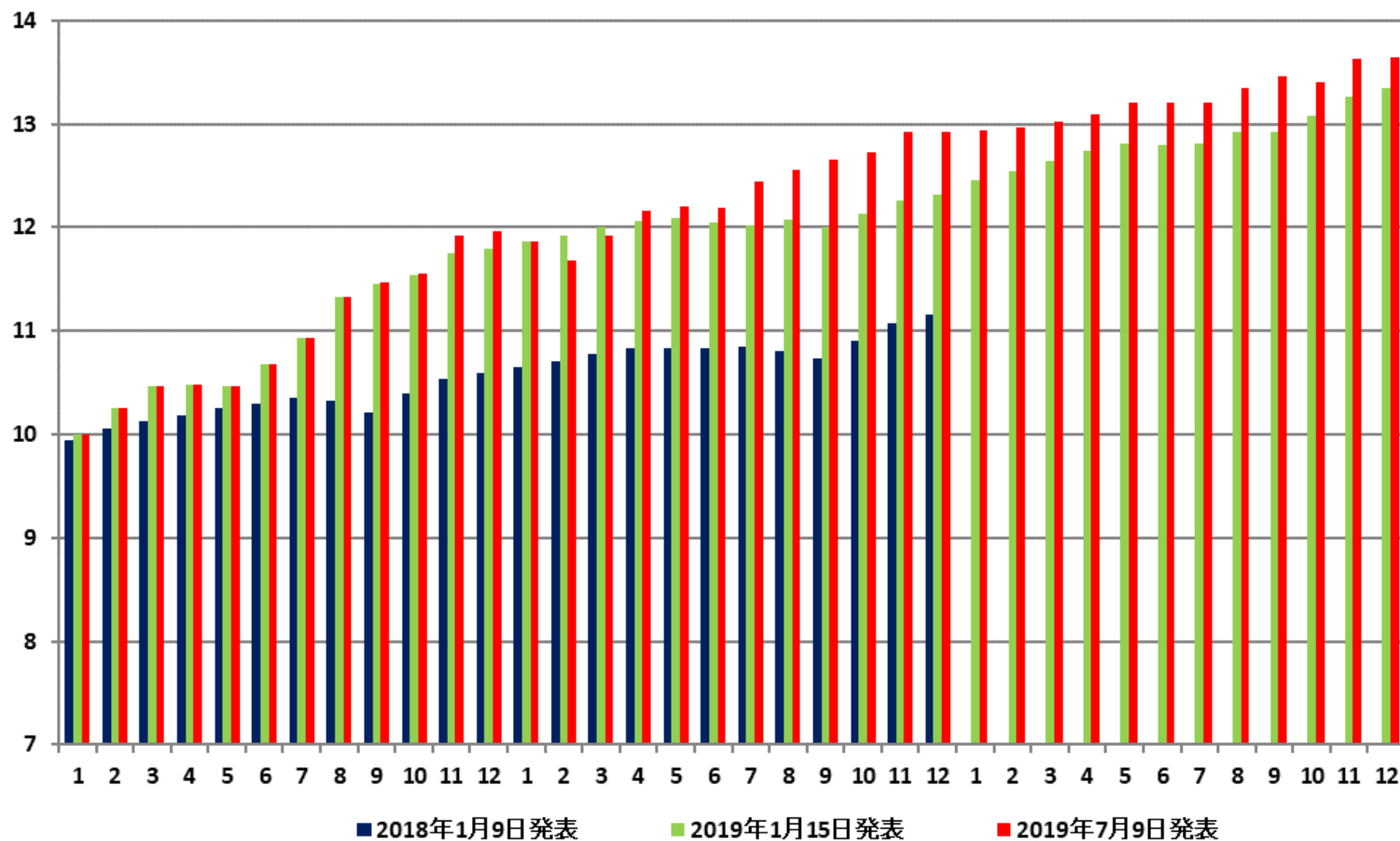
日量万バレル



出所: IEAデータをもとに作成

# 米国原油生産見通しの変化 (2018～2020年)

日量百万バレル

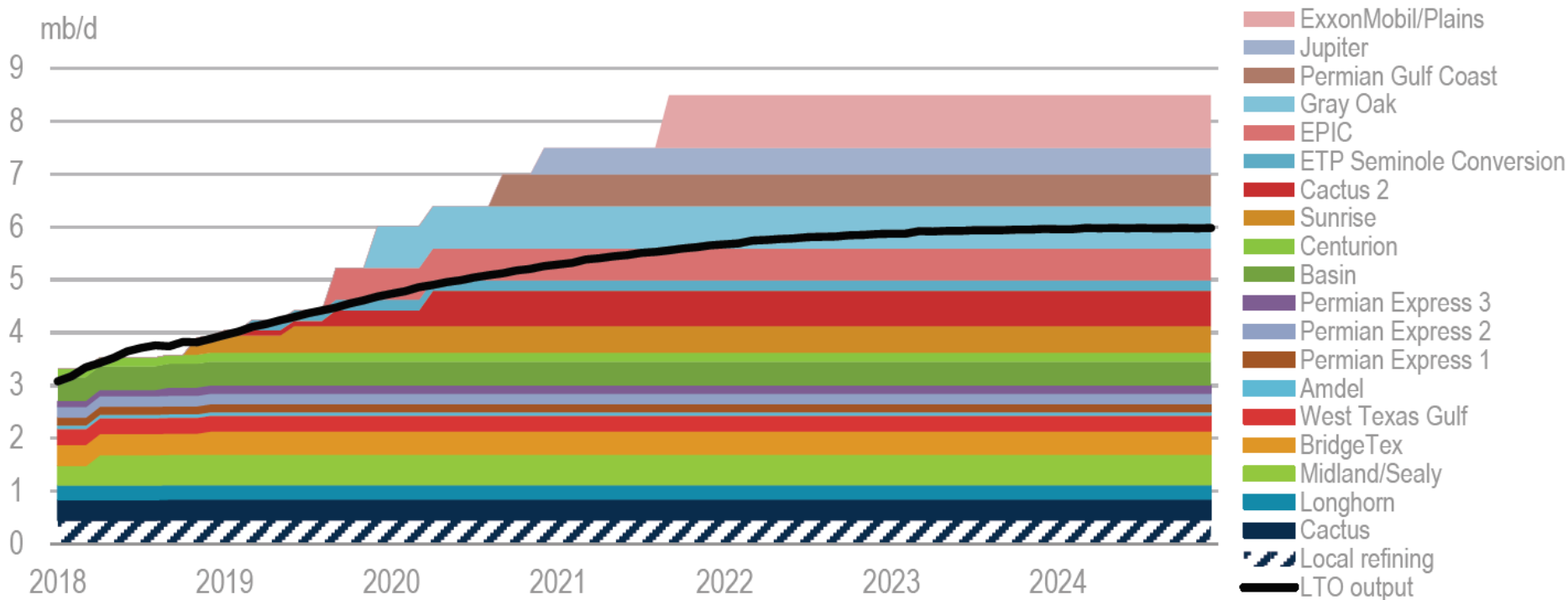


※2018年1月発表分は全て見通し  
 2019年1月発表分は2018年12月まで実績、以降見通し  
 2019年7月発表分は2019年6月まで実績、以降見通し

出所：米国エネルギー省データをもとに作成



# 米国パーミアン及びバイーグulfオードからの原油輸送パイプライン能力展望



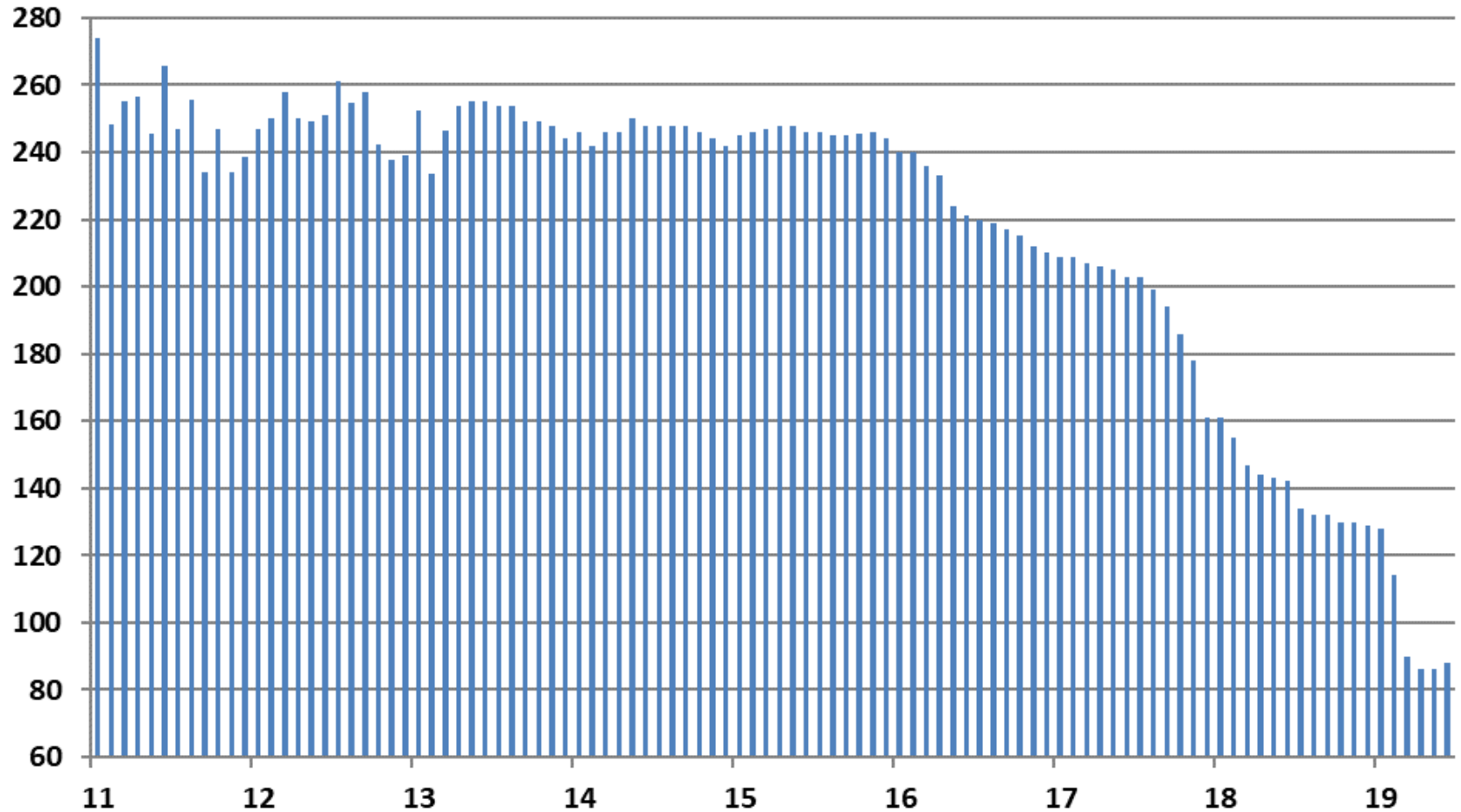
出所: IEA

# 注目点(短期)

1. 季節的な石油需要期(夏場のドライブシーズンに伴うガソリン需要期)が峠越え: 製油所の秋場のメンテナンス作業実施が視野に入るとともに、稼働を低下、原油購入不活発化→季節的な需給の緩和感が市場で増大→原油価格に下方圧力
2. また、米国と中国の貿易紛争を巡る交渉は再開する方向となったものの、長期化する可能性があり、その間は既に賦課された関税が両国経済等にとって足かせとなることから、両国を含む世界経済減速(もしくは減速見通し)懸念により、原油価格が変動するリスクを内包(下振れ:石油需要の伸びの鈍化、上振れ:利下げ)
3. OPEC及び一部非OPEC産油国による減産措置において、サウジアラビアの減産遵守率が高水準を維持すれば、2019年末に向け石油在庫が減少するとともに石油需給の引き締まるとの期待が市場で発生、一時的にせよ原油相場が上昇する場面が見られる可能性も
4. 地政学的リスク要因(イランを含む中東情勢、ベネズエラ、リビア等)での展開によっては、原油価格が変動する余地あり
5. ハリケーンシーズン(6月1日~11月30日):特に8月後半~10月前半は活発に発生、米国メキシコ湾沖合油田、沿岸部石油港湾及び製油所の操業が脅かされる局面も→原油相場に影響する場面も

# ベネズエラ原油生産(2011~19年)

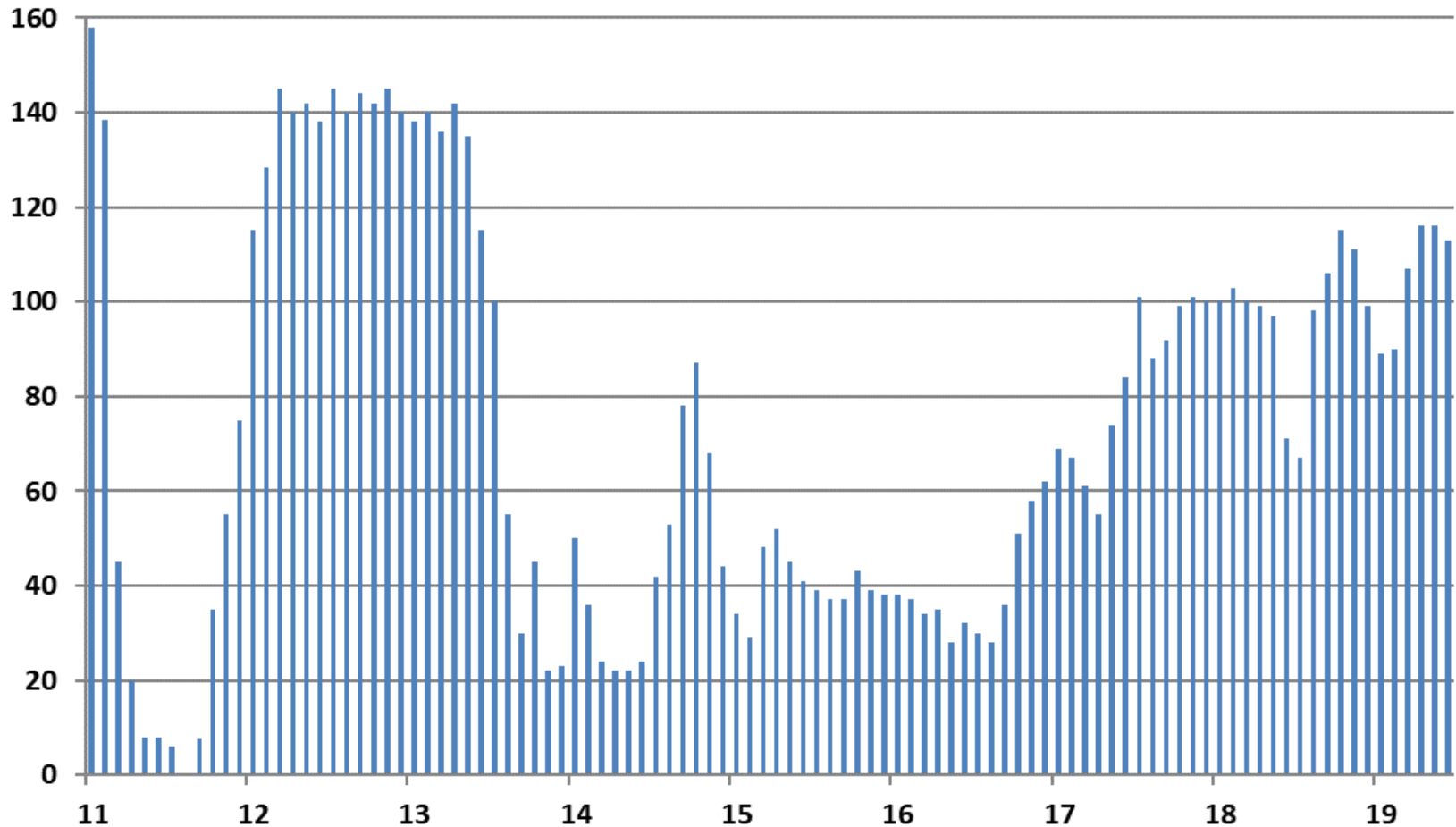
日量万バレル



出所:IEAデータをもとに作成

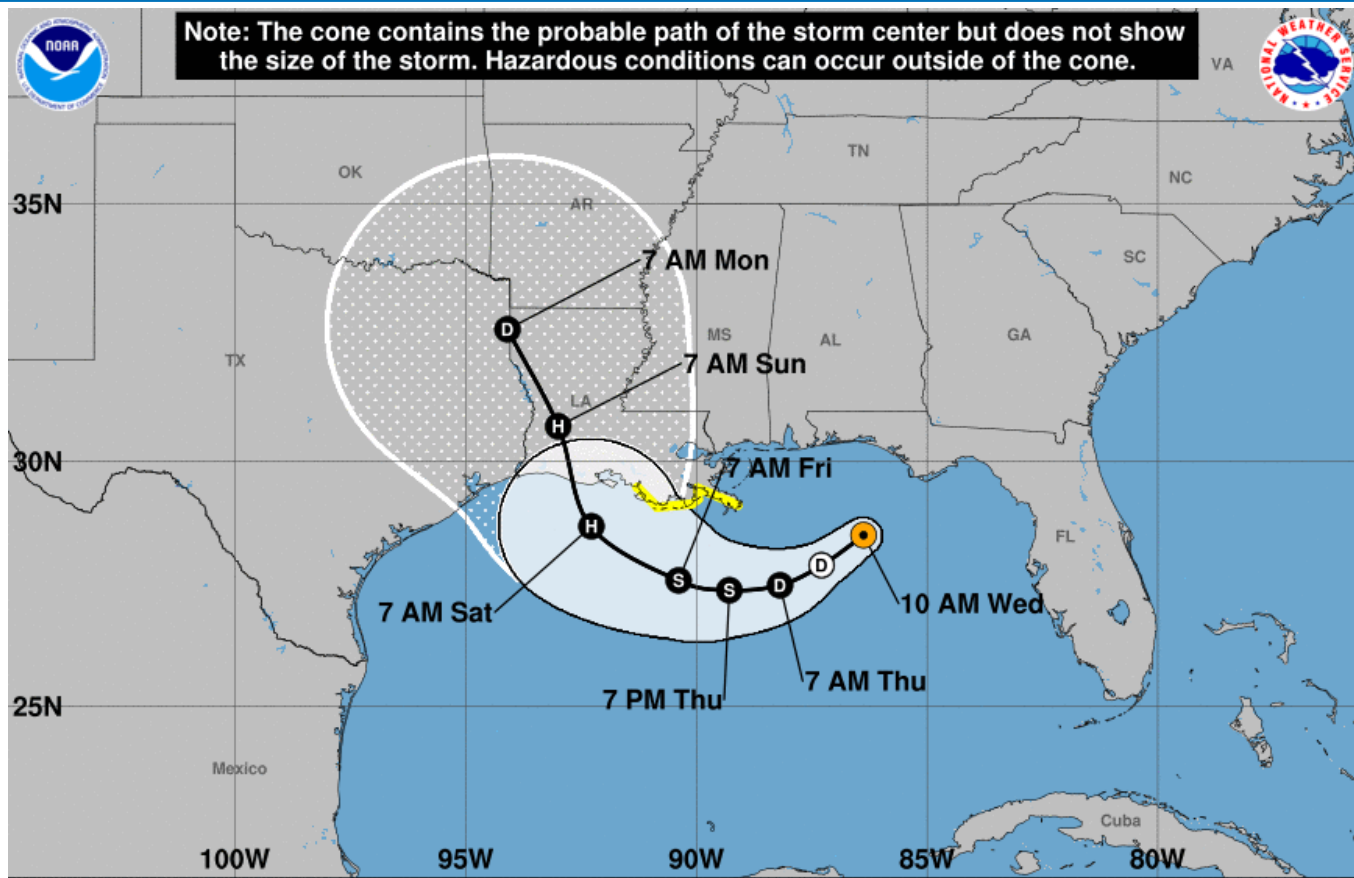
# リビア原油生産(2011~19年)

日量万バレル



出所:IEAデータをもとに作成

# ハリケーンシーズン突入



Note: The cone contains the probable path of the storm center but does not show the size of the storm. Hazardous conditions can occur outside of the cone.

**Potential Tropical Cyclone Two**  
 Wednesday July 10, 2019  
 10 AM CDT Advisory 1  
 NWS National Hurricane Center

**Current information:** ●  
 Center location 28.5 N 86.4 W  
 Maximum sustained wind 30 mph  
 Movement WSW at 8 mph

**Forecast positions:**  
 ● Tropical Cyclone ○ Post/Potential TC  
 Sustained winds: D < 39 mph  
 S 39-73 mph H 74-110 mph M > 110 mph

**Potential track area:**  
 Day 1-3 Day 4-5

**Watches:**  
 Hurricane Trop Storm

**Warnings:**  
 Hurricane Trop Storm

# 大西洋圏暴風雨発生予想(2019年)



	発表日	熱帯性低気圧(命名されるもの)	うちハリケーンとなるもの	うち強い勢力*のハリケーンとなるもの
コロラド州立大学	4月4日	13	5	2
国立ハリケーンセンター	5月23日	9-15	4-8	2-4
コロラド州立大学	6月4日	14	6	2
コロラド州立大学	7月9日	14	6	2
平年(1981~2010年平均)		12.1	6.4	2.7

\*: カテゴリー3(風速時速111マイル(時速178km))以上のハリケーン

出所: 予測機関予測をもとに作成